

[横浜美術館]

平成 31 年度/令和 1 年度業務報告及び収支決算

[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]

※文中の事業欄において、

●：主催事業 ○：共催事業
を示します。

※文中の達成指標欄において、

□：定量的指標 ■：定性的指標
を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜美術館
所在地	横浜市西区みなとみらい 3 丁目 4 番 1 号
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 8 階建 一部 3 階建
敷地・延床面積	19,803 m ² ・26,829 m ²
開館日	平成元年 11 月 3 日

2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町 2 番地 産業貿易センタービル 1 階
設立年月日	平成 3 年 7 月 10 日
指定期間	平成 25 年 4 月 1 日から平成 35 年 3 月 31 日まで

3 基本方針

(1) 基本的な方針の総括

本年度は、コレクションを中心に様々な活動を行うことで美術館にとってのコレクションの意義を伝えると同時に、他館に例のない多彩さと規模の 30 周年記念事業を通年にわたって展開し、当館の存在感を発信しました。

企画展では、コレクションを巡って企画された 3 展ともに計画を上回る来場者がありました。

当館コレクションについては、カナダで写真展が開催されたことは大きな成果となりました。同時に、大規模改修後の公開に向けて、作品画像の撮影、美術情報センターが所蔵する教育ビデオのデジタル化にむけて準備を進めています。

教育プログラムについては、鑑賞教育では、教育普及の視点から当館コレクションを読み解いた展覧会に多くの来場者が訪れ、造形教育では、子どものアトリエでアーティスト連携講座が増え、市民のアトリエで企画展のみならずコレクション展など様々な展覧会との連携講座を行い、当館の特徴である多機能性を発揮したプログラムが実現しています。

30 周年記念事業では、3 つの展覧会に加え、式典、国際シンポジウムの開催、記念カレンダー、記念書籍の発行、他組織と連携した音楽舞台の上演、パースデー・ウィークエンドでのイベント開催など、充実した活動を展開しました。

なお、10/12-13 には台風、2/29-3/31 には新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館が続き、非常時における安全かつ柔軟な館運営を求められる年となりました。

(2) 31年度・1年度の業務の方針及び達成目標の総括

① 経営の総括

◇横浜トリエンナーレ

- ・ヨコハマトリエンナーレ 2020 にむけて、プレイベントであるエピソード 00 を 11 月に横浜で開催するなど、来年度の展覧会に向けて準備をすすめています。

◇海外への発信

- ・海外巡回については、10/11-3/22(3/14 以降新型コロナウイルスに関連し休館)にて、当館写真コレクション展をナショナル・ギャラリー・オブ・カナダで開催しました。日本経済新聞(6/28)での特集「ミュージアムとコレクション」や日本経済新聞回顧(12/10)で「入超」の日本において果敢な試みとして本展が取り上げられるなど、美術関係者の注目も集めました。大規模改修後の実現に向け、引き続き、海外巡回展を企画し、巡回先への打診を継続します。

② 事業の総括

◇企画展

- ・来場者数については、企画展合計の目標 28.3 万人に対し、実績は 340,336 人(120%)と、計画を上回りました。
- ・今年度の企画展はコレクションに焦点をあて、MEET 展、原展、オランジュリー展を実施し、特に原展は毎日新聞回顧(12/19)においてパトロンに焦点を当てた好企画として高階秀爾氏による 3 選に選出され、美術関係者から評価されました。
- ・また、New Artist Picks 2019 として、3/14-4/12 にて開催する予定だった柵瀬茉莉子展は、新型コロナウイルスに関連し、翌年度に延期しています。
- ・なお、昨年度開催した駒井展の企画およびカタログ中の論文が評価され、本展を企画した当館学芸員の片多祐子が「第 31 回倫雅美術奨励賞」の「美術評論部門」を受賞しました。

◇コレクション

- ・コレクション展合計の目標 29.1 万人に対し、実績は 356,914 人(123%)と、計画を上回りました。
- ・なお、コレクションによるパッケージ展の国内巡回については、今年度の実施はないものの、来年度のトライアローグ展が再来年度 2 つの共同企画館に巡回する予定です。また大規模改修中に、当館コレクションを館外展覧会として実施できるよう、協議を進めています。
- ・そして、コレクション作品画像については、6 月に、大規模改修を含めた今後 5 年間の撮影と公開の計画を策定しました。コレクションのうち必要と考えられる約 3,600 点の撮影、コレクションポジフィルム約 1,850 点のデジタル化、そして、コレクション画像約 900 点のウェブサイト公開を目指しています。この公開が実現しますと、昨年度に実施した約 1,700 点の公開と合わせ、著作権がないもの・著作権料がかからない全作品が公開されることとなります。今年度の撮影・デジタル化は 12 月までに、公開も 3 月までに完了しています。

◇美術情報センター

- ・美術情報センターでは、30,000 人の目標に対し、42,248 人(141%)と計画を上回りました。この要因は、原展会期中に、展示室から大きなバナーで誘導サインがあり、また、特別資料展示をご覧になる熱心な鑑賞者が多かったためです。
- ・普及のための事業のうち研修については、従来大学向けに行っていたものを、教育委員会と連携して市立高校向けに改変して 2 月に実施し、その高校生は当館ボランティアとして活動しました。
- ・そして、所蔵映像資料デジタル化については、6 月に、大規模改修を含めた今後 4 年間の計画を策定しました。教育ビデオ約 850 件について精査し、著作権の確認とクリーニング後にデジタル化を行い、大規模改修後に新機器で

の公開を目指しています。

◇教育プログラム

- ・教育プログラムのうち展覧会関連プログラムについては、目標を上回って開催しており、原展での市内私立中高茶道部による呈茶、オレンジリー展でのピアニストと学芸員のトークなど、特徴あるプログラムも実施しました。また、ボランティアによる街歩きツアーが定着しはじめ、6月には原三溪市民研究会と連携した原展関連イベントとして、10月には国立民族学博物館と JICA の外国人インターン生に向けて行いました。何より、教育普及の観点による展示が実現したことは今年度の大きな成果となりました。平成 28 年度にコレクション展の一部として実施した「描かれた横浜」に続き、9-10 月に「絵でたどるペリー来航」をアートギャラリー 1 で開催し、これまで積み重ねてきた教師の方々との研究やボランティアによる街歩きツアーが展覧会に結実しました。
- ・子どものアトリエでは、25,000 人の目標に対し、新型コロナウイルスに関連した 2/29 以降の講座中止等により、19,897 人(80%)と計画を下回りましたが、アーティスト連携について、ガラス造形作家、MEET 展出品作家、パーカッションスト、メディアアーティストによる講座を実施し、意欲的に取り組みました。
- ・市民のアトリエでは、5,500 人の目標に対し、6,083 人(111%)と計画を上回りました。本年度は、企画展のみならず、コレクション展など多様な展覧会と連携し、抹茶茶碗、日本画、レクチャー、複製絵画の講座を実施しています。また、東京藝術大学映像科との連携については、検討のなかで双方良い形での事業実施は難しいと判断しました。今後は他大学も含めて連携を検討していきます。
- ・なお、アトリエと企画展の共同制作プロジェクトとして、MEET 展出品作家とグランドギャラリーでワークショップを行い、その成果作品を会期中にグランドギャラリーに展示しました。

◇市民協働・地域や市民に貢献する事業

- ・ボランティアについては、今年度から、鑑賞ボランティアとビジターサービス・ボランティアとが統合して活動し、アクセス・プログラムやアクティブ・リスニングなど外部の専門家による研修を経て、様々なトークや来館者案内を行っています。

③ 運営管理の総括

◇適正な施設管理

- ・開館 30 周年事業については、3 つの展覧会に加え、当財団内の専門館と連携した式典(4 月)、大規模改修等を経験した国内外美術館関係者を招聘して美術館の意義を探究した国際シンポジウム(6 月)、市民によって選ばれた当館コレクションによる記念カレンダーの制作(9 月)、劇作家や小説家などが参画して当館に関する記憶を喚起し想像力で未来を予見することを試みた記念書籍の発行(10 月)など、多彩で大規模な事業を実施しています。さらに、他組織と連携し、当館コレクションを活用した音楽舞台の上演(9 月)や、今年度で解散するコレクション・フレンズの方々とカナダでの当館コレクション巡回展を見に行くツアー(10 月)を開催したほか、11 月 3 日の 30 周年の前後 4 日間をバースデー・ウィークエンドとし様々なイベントを行うなど、他館に例のない多彩さと規模で充実した活動を展開しました。
- ・なお、記念カレンダーは「第 71 回 全国カレンダー展」の「第 3 部門」(出版・小売販売・既成カレンダー)にて、「文部科学大臣賞」と「金賞」を受賞しました。

◇自主財源の獲得

- ・企業連携プログラム Heart to Art については 7 社との契約締結となり、昨年度と比して 2 社減と計画を下回りましたが、日本経済新聞社(10/3)に企業向けアウトリーチが掲載されるなど美術界の注目を集めています。

◇収支

- ・Meet 展の助成金獲得や、原展及びオレンジリー展の入場者数増により事業収入が増収となりました。収益を、

Windows10 への移行に伴う各種ソフトウェアの更新やデジタル無線機の整備等に投資し、黒字決算となりました。

④新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応（再掲）

- ・ 2/29-3/31 臨時休館：アトリエ講座等教育普及事業中止、美術情報センター閉室、New Artist Picks 2019(会期：3/14-4/12) 翌年度延期等による来館者数減
- ・ なお、10/11-3/22 ナショナル・ギャラリー・オブ・カナダで開催した当館写真コレクション展が 3/14 以降休館

4 経営に関する計画

◇政策目標『横浜美術館は国際都市横浜の魅力を牽引します』

(1) 横浜トリエンナーレ [重点的な取組み]

[目指す成果／アウトカム] 主会場としての当館の特性を活かすと同時に運営組織の構築・基盤整備を行い、国際的ネットワークを構築しながら困難な状況下でも継続的に実施することで、当館の発信力を最大限に発揮するため、 ・横浜トリエンナーレへの全館体制での取組みを強化します。 ・H28 に新設した国際グループが中心となり、過去 3 回の横浜トリエンナーレの企画運営に関わった経験と、国内外の国際展に関する知見を基に、横浜トリエンナーレの国内外への発信力をより高める企画運営体制を市に提案し、推進します。 [成果についての振り返り] ・ヨコハマトリエンナーレ 2020 にむけて、プレイベントであるエピソード 00 を 11 月に横浜で開催するなど、来年度の展覧会に向けて準備をすすめています。		
[取組内容] ●ヨコハマトリエンナーレ 2020 の準備	[達成指標] ■通年	[実施内容と達成状況] 【達成】実施

(2) 海外との連携[重点的な取組み]

[目指す成果／アウトカム] 当館の発信力の強化に資する事業として、アジアの国々と重点的に連携するため、 ・質の高い展覧会を関係機関と協働して組織し、アジアをはじめ海外に巡回し、活動を強化します。新たに共同企画など深い協働性を通じた高度な質を目指します。 ・コレクションによるパッケージ展を立案し、他の美術館での開催を有料でオファーし、活動を強化します。 ・H28 に新設した国際グループを中心に、全館体制で推進・強化します。 [成果についての振り返り] ・海外巡回については、10/11－3/22(3/14 以降新型コロナウイルスに関連し休館)にて、当館写真コレクション展をナショナル・ギャラリー・オブ・カナダで開催しました。日本経済新聞(6/28)での特集「ミュージアムとコレクション」や日本経済新聞回顧(12/10)で「入超」の日本において果敢な試みとして本展が取り上げられるなど、美術関係者の注目も集めました。 ・大規模改修後の実現に向け、引き続き、海外巡回展を企画し、巡回先への打診を継続します。		
[取組内容] ●コレクションパッケージ展あるいは企画展の海外巡回 ●海外インターン受入 ●日英での展覧会の会場パネル、カタログ作成	[達成指標] ■H33・34 実施に向けた準備 □1 回/年 □1 回/展	[実施内容と達成状況] 【達成】1 回/年 ・10/11－3/22(3/14 以降新型コロナウイルスに関連し休館)当館写真コレクション展@ナショナル・ギャラリー・オブ・カナダ 【達成】1 回/年 ・10/5 受入実施 (JICA・民博) 【達成】1 回/展 ・会場パネルは冒頭パネルと章パネル

●日英での紀要の発行[再掲] ●外国人団体向けボランティア・トーク [再掲] ●日英での展覧会プレスリリース作成 ●海外メディアへの展覧会プレスリリース送付 ●海外VIPへの展覧会招待状送付 ●海外来館者の把握 ●国際シンポジウム開催(開館30周年記念事業)[再掲]	□1回/年 □1回/年 □1回/展 □1回/展 □1回/展 ■通年 □1回/年	を日英併記 ・カタログは概要、奥付、挨拶、作品リストを日英併記 【達成】1回/年 ・3月発行(サマリーを日英併記) 【達成】1回/年 【達成】1回/展 【達成】1回/展 【達成】1回/展 【達成】通年(H28.4以降継続実施) 【達成】1回/展
---	---	--

(3) 広報

[目指す成果／アウトカム] 発信力の強化に資する事業として、事業および施設の広報を充実させるため、 ・広報・連携体制の充実・強化：①個別の展覧会や事業ごとの宣伝と全館広報の両立、②市民やメディアとの信頼と関係強化、③館として発信するパンフレットや刊行物発刊、④ソーシャルメディアの効果的な運用方法の開発を実施し、活動を強化します。 ・マーケティングの強化：認知度および顧客満足度調査などを試行的に実施し、コンセプト及びターゲットの明確化の推進を、引き続き実施します。 ・首都圏に向けた広報に力を入れます。 [成果についての振り返り] ・首都圏・横浜向けに重点をおいた展覧会毎の広報に加え全館広報を展開し、露出件数、ウェブサイトアクセス数ともに目標を上回りました。		
[取組内容] ●展覧会および全館広報などの通常業務 ●首都圏と横浜の各々に焦点をあてた広報 ●ウェブを活用した全館広報	[達成指標] □露出件数 700 件/年 □ウェブサイトアクセス数 4,700,000 件/年 □1回/年 □1回/年	[実施内容と達成状況] 【達成】3,045 件/年 【達成】6,338,782 件/年 【達成】1回/年 ・首都圏：MOT 割引(MEET 展) ・横浜：三溪園割引(原展) 【達成】1回/年 ・4月30周年記念ウェブサイト公開

(4) 外部との連携

[目指す成果／アウトカム]

営業力の強化に資する事業として、都市型美術館の特色を打ち出すため、 ・都市戦略との連携：創造都市、シティセールス、観光プロモーションと連携した事業展開を引き続き実施します。 ・専門性を活かしたネットワークの強化：①社会課題や子どもへの取組みについて財団内連携、②美術家、事業者、NPO、ボランティア、大学等との連携を引き続き実施します。 ・美術館の特色を生かしたオリジナリティの高い事業とするため、より高い質を重視した事業展開を目指します。 [成果についての振り返り] ・当館の専門性を活かし、横浜市、財団内施設、文化組織、企業等との連携による事業を実施し、当館の活動を広げています。		
[取組内容] ●専門館連携あるいは外部連携をしつつ、専門性を活かした横浜市推進事業との連携し、オリジナリティの高い事業を実施	[達成指標] □4 回以上/年	[実施内容と達成状況] 【達成】5 回/年 ・7/27 原展レクチャー@横浜ランドマーク教室[NHK カルチャー連携] ・8/5-9/1 スマホを使った作品情報表示サービスの実証実験 [NTT 連携] ・10/25 オランジュリー展コンサート [財団内専門館連携] ・11/20 オランジュリー展コンサート [財団内専門館連携] ・1/18 クラシックヨコハマ音遊びWS[市連携]

5 事業についての計画

◇政策目標『質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を広げます』

(1) 企画展

[目指す成果／アウトカム] 発信力の強化に資する事業として、そして営業力の強化に資する事業として、展覧会基本方針等に立脚し、質の高い文化活動を実現するとともに、来館者の裾野を拡大するため、 ・独創性、地域性、発信性、経営的な観点を踏まえて、バラエティに富んだ企画展をバランスよく開催することを、引き続き実施します。 ・集客が期待でき、学芸的な知見・研究に基づく魅力的な企画案を積極的にマスメディアに提案し、共催することを引き続き実施します。 ・コレクションをベースとした企画展の開催を引き続き実施します。 [成果についての振り返り] ・来場者数については、企画展合計の目標 28.3 万人に対し、実績は 340,336 人（120%）と、計画を上回りました。 ・今年度の企画展はコレクションに焦点をあて、MEET 展、原展、オランジュリー展を実施し、特に原展は毎日新聞回顧(12/19)においてパトロンに焦点を当てた好企画として高階秀爾氏による 3 選に選出され、美術関係者から評価されました。 ・なお、昨年度開催した駒井展の企画およびカタログ中の論文が評価され、本展を企画した当館学芸員の片多祐子が「第 31 回倫雅美術奨励賞」の「美術評論部門」を受賞しました。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
●横浜美術館開館 30 周年記念 Meet the Collection ―アートと人と、美術館 【会期：4 月 13 日-6 月 23 日・62 日間】 開館 30 周年の節目を記念した特別展。1 万 2 千点を超えるヴァラエティ豊かなコレクションから各分野の名品を中心に 3 0 0 点を展示。4 人のアーティストをゲストに迎え、作品同士の出会いの場を創出し、アートの自由な見方や多様な関わり方を提案します。	□入場者数 33,000 人（532 人/日）	【達成】 39,804 人（642 人/日）
●横浜美術館開館 30 周年記念 生誕 150 年・没後 80 年記念 原三溪の美術 伝説の大コレクション *メディアとの共催 【会期：7 月 13 日-9 月 1 日・44 日間】 原三溪の生誕 150 年・没後 80 年を記念して、横浜が輩出した希代の文化人・原三溪の業績を、芸術文化とりわけ美術との関わりに焦点を当て、三溪旧蔵の古美術や近代美術など、国宝、重文を多数含む 1 0 0 点などにより、三溪自身の美術史観も織り込みつつ紹介します。	□入場者数 50,000 人（1,136 人/日）	【達成】 76,654 人（1,742 人/日）
●横浜美術館開館 30 周年記念 オランジュリー美術館コレクション ルノワールとパリに恋した 12 人の画家たち *メディアとの共催 【会期：9 月 21 日-1 月 13 日・93 日間】 横浜美術館開館 30 周年を記念し、フランスを代表する美術館のひとつであるオランジュリー美術館のコレクション展を開催します。横浜美術館開館 30 周年を記念し、ルノワールからピカソまで、印象派とポスト印象派を中心とする珠玉の名画約 70 点を、そのコレクションが築かれた歴史も紐解きながら紹介します。	□入場者数 200,000 人（2,127 人/日）	【達成】 223,878 人（2,407 人/日）

	□企画展アンケート 4.0 以上 /年	【達成】 4.51/年
--	------------------------	-------------

(2) New Artist Picks

[目指す成果／アウトカム] 有望な若手アーティストに作品発表の機会と場を提供し、創作活動を支援するため、継続的に取組み、広報を強化して、一定の入場者数を確保します。また、質の向上に取り組むと同時に、展覧会後 5 年間の作家の活動を把握し成果を確認することで、活動を強化します。 [成果についての振り返り] ・New Artist Picks 2019 として、3/14-4/12 にて開催する予定だった柵瀬茉莉子展は、新型コロナウイルスに関連し、翌年度に延期しています。		
[取組内容] ●New Artist Picks 2019 ●展覧会後 5 年間の作家の活動を把握	[達成指標] □入場者数 3,000 人(メイン会場) □1 回/年	[実施内容と達成状況] 【未達成】0 人 ・3/14-4/12 柵瀬茉莉子展 延期 【達成】1 回/年

◇政策目標『魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します』

(1) コレクション

[目指す成果／アウトカム] 収集方針に基づき、作品の収集を提案し、横浜市民共有の財産として収蔵している優れたコレクションをさらに充実させ、市民の共有財産であるコレクションを適切に保管して次世代に継承し、コレクションを市民に還元し、美術館のプロモーションに貢献するため、 ・収集：①市民に親しまれる作品、美術の新しい価値を創造する作品、横浜の美術の歴史を伝える作品収集提案、②現行の中期重点方針を見直し、現状に即した内容に改定して横浜市に提案、3 か年ごとの収集計画を策定して収集を促進、③横浜トリエンナーレの機会に話題性のある現代美術作品の収集提言を、引き続き実施します。 ・保存：①作品の安全な保存、②作品台帳および収蔵庫内の作品蔵置場所の整備を、引き続き実施します。 ・活用：①原則として年 2 ～3 回コレクション展開催（展示構成やテーマ展示などを工夫、人気の高い作品を展示する一方でなるべく多くを展示、特に新収蔵作品は迅速に展示公開、同時期に開催する企画展と連動したテーマ展示、展示方法や展示室の環境整備と情報提供を工夫）、②コレクションによるパッケージ展を立案し、他の美術館での開催を有料でオファーし、活動を強化します。 [成果についての振り返り] ・コレクションの形成 収集方針に基づいて、収集候補作品を提案しました。 ・コレクションの保存 ・定期的な収蔵庫内の点検と清掃を実施し、庫内環境の保全に努め、収蔵庫の状況について現状の課題を市と共有しました。 ・新収蔵品のデータを登録し、目録として公開し、広く研究に貢献しました。 ・コレクションの活用 ・コレクション展合計の目標 29.1 万人に対し、実績は 356,914 人（123%）と、計画を上回りました。
--

・なお、コレクションによるパッケージ展の国内巡回については、今年度の実施はないものの、来年度のトライアログ展が再来年度2つの共同企画館に巡回する予定です。また大規模改修中に、当館コレクションを館外展覧会として実施できるよう、協議を進めています。 ・そして、コレクション作品画像については、6月に、大規模改修を含めた今後5年間の撮影と公開の計画を策定しました。コレクションのうち必要と考えられる約3,600点の撮影、コレクションポジフィルム約1,850点のデジタル化、そして、コレクション画像約900点のウェブサイト公開を目指しています。この公開が実現しますと、昨年度に実施した約1,700点の公開と合わせ、著作権がないもの・著作権料がかからない全作品が公開されることとなります。今年度の撮影・デジタル化は12月までに、公開も3月までに完了しています。		
[取組内容] ●コレクションの形成、保存に関する通常業務 ●コレクションの活用 ・コレクション展 ・1期【会期：4月13日-6月23日・62日間、7月13日-9月1日・44日間】 開館30周年の節目を記念した特別展。1万2千点を超えるヴァラエティ豊かなコレクションから各分野の名品を一堂に展示するとともに、平成という時代とともに歩んできた横浜美術館の30年を振り返ります。 ・2期【会期：9月21日-1月13日・93日間】 同時期に開催する「オレンジジュリー展」と緩やかに連動するテーマや構成により、当館のコレクションの魅力を伝える展示を行います。 なお、開港160周年をテーマにした展示を行います。 ・コレクション展広報物の作成 ・コレクション画像撮影と公開	[達成指標] □入場者数 35,700人(576人/日) □入場者数 51,900人(1,180人/日) □入場者数 204,200人(2,172人/日) □コレクション展アンケート 4.0以上/年 □1回/年 ■撮影	[実施内容と達成状況] 【達成】実施 ・10/29 内部検討委員会 ・12/6 収集委員会 ・3月 前年度目録発行 【達成】43,950人(709人/日) 【達成】85,419人(1,941人/日) 【達成】227,545人(2,247人/日) 【達成】4.29/年 【達成】1回/年 ・9月 コレクション展2期&ペリー展チラシ 【達成】実施

		・6月 撮影計画決定 ・12月 撮影・デジタル化完了（今年度分） ・3月 公開（今年度分）
--	--	---

(2) 美術情報センター

[目指す成果／アウトカム] デジタル化の時代においてこそモノとしての「美術情報」の重要性と稀少性に着目し、専門的な見地にたつて、これらを収集・整理・保管し、様々な人の要望に対応し、適切かつ丁寧に提供することで、これまで蓄積してきた図書等の美術情報を発展的に継承し、公開して市民や研究者の利用に供するため、 ・継続的な収集・整理・保管、市民、専門家、子どもなど様々な人の要望に対応し、適切かつ丁寧に提供することを、引き続き実施します。 ・横浜トリエンナーレの実施にむけて、関連する美術情報を集積することを、引き続き実施します。 ・開かれた専門性をめざし、他事例の調査に基づいた具体的な取組みを実施します。 [成果についての振り返り] ・美術情報センターでは、30,000人の目標に対し、42,248人（141%）と計画を上回りました。この要因は、原展会期中に、展示室から大きなバナーで誘導サインがあり、また、特別資料展示をご覧になる熱心な鑑賞者が多かったためです。 ・普及のための事業のうち研修については、従来大学向けに行っていたものを、教育委員会と連携して市立高校向けに改変して2月に実施し、その高校生は当館ボランティアとして活動しました。 ・そして、所蔵映像資料デジタル化については、6月に、大規模改修を含めた今後4年間の計画を策定しました。教育ビデオ約850件について精査し、著作権の確認とクリーニング後にデジタル化を行い、大規模改修後に新機器での公開を目指しています。		
[取組内容] ●収集、分類、保管、利用者提供などの通常業務 ●普及のための事業 ●所蔵映像資料デジタル化	[達成指標] □利用者数 30,000人/年 □5回/年 ■作業計画/著作権クリア	[実施内容と達成状況] 【達成】42,248人/年 【達成】5回/年 ・3/29-7/10 特別資料展示（30周年記念） ・7/12-9/18 展覧会連動企画特別資料展示（原展） ・9/20-4/1 展覧会連動企画特別資料展示（コレクション展2期・開港160周年） ・1/12 一般向けトーク〔再掲：市民のアトリエ〕 ・2/15 市立高校向け研修7人 【達成】実施 ・6月 作業計画決定・著作権クリア

●国際シンポジウム開催(開館 30 周年記念事業) [再掲]	□1 回/年	【達成】1 回/年
--------------------------------	--------	-----------

(3) 調査・研究

[目指す成果／アウトカム] あらゆる美術館活動の基礎としての調査・研究を実施するため、成果は事業に反映すると同時に、紀要などにまとめて社会に還元し、活動を強化します。なお、専門性を広く市民のために役立てるため、専門的活動の効果的な開示を、海外も視野にいれて実施します。 [成果についての振り返り] ・職位に応じて、事業および通常業務の遂行においてOJTを実施し、専門的知見とスキルの伝達および習得に取り組みました。 ・研究紀要では、紀要（サマリー）の日英併記を徹底し、一層の発信強化を実現しています。		
[取組内容] ●紀要の発行(論文3本以上, 日英併記, 販売検討) [再掲: 日英併記]	[達成指標] □1 回/年	[実施内容と達成状況] 【達成】1 回/年 ・3 月発行

◇政策目標『美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます』

(1) 教育プログラム：鑑賞教育 [重点的な取組み]

[目指す成果／アウトカム] 教育プログラムの強化に資する事業として、鑑賞を深める機会を多くの方に提供することで、社会教育機関である美術館の重要な使命を果たすため、そして、幅広い世代の、様々な立場の、様々な属性を持つ人々に美術の価値を還元するという公立美術館の使命を果たすため、 ・H24に組織新設し、鑑賞、創作体験、子どもを対象を連動させた独自のエデュケーションプログラムを強化します。 ・①ワークショップ、鑑賞会などコレクション展鑑賞サポートのレギュラーサービス化、②学校連携による鑑賞プログラムを開発、③主にコレクション展のための鑑賞サポートツールの開発を行い、活動を強化します。 ・視覚障がい者むけ鑑賞サポートツール開発により、活動を強化します。 ・展覧会鑑賞パートナーによるコレクション展ギャラリートーク等の実施を通じて、活動を強化します。なお、様々なプログラムの試行を踏まえ、横浜美術館の特徴を活かしたオリジナリティある定番プログラムの確立を目指します。 ・質を保ちつつ、市民ならではの視点を活かした個性あふれるボランティア・トークについて、外国人向けなど種類を拡大します。 [成果についての振り返り] ・教育プログラムのうち展覧会関連プログラムについては、目標を上回って開催しており、原展での市内私立中高茶道部による呈茶、オランジュリー展でのピアニストと学芸員のトークなど、特徴あるプログラムも実施しました。 ・また、ボランティアによる街歩きツアーが定着しはじめ、6月には原三溪市民研究会と連携した原展関連イベントとして、10月には国立民族学博物館と JICA の外国人インターン生に向けて行いました。 ・何より、教育普及の観点による展示が実現したことは今年度の大きな成果となりました。平成 28 年度にコレクション展の一部として実施した「描かれた横浜」に続き、9-10 月に「絵でたどるペリー来航」をアートギャラリー 1 で開催し、これまで積み重ねてきた教師の方々との研究やボランティアによる街歩きツアーが展覧会に結実しました。
--

[取組内容] ●企画展鑑賞プログラム	[達成指標] □5 回/展	[実施内容と達成状況] 【達成】 7～9 回/展 ・ MEET 展：7 回 ・ ギャラリートーク：5/4, 17, 18(アーティスト), 6/1, 2(アーティスト), 21 ・ その他：6/12 ジュニアワークシート(ウェブダウンロードあり) ・ 原展：8 回 ・ ギャラリートーク：7/26, 8/12, 16, 17 ・ 講演会：7/20, 21 ・ その他：8/9 ジュニアワークシート(ウェブダウンロードあり), 8/10 横浜雙葉中高茶道部呈茶 ・ オランジュリー展：9 回 ・ ギャラリートーク：10/11, 11/1(ミニレクチャー), 11/22, 12/20(ミニレクチャー), 12/23(クロストーク) ・ 講演会：9/21, 11/16 ・ その他：8/26 ポケモン鑑賞ガイド(オランジュリー展*ウェブダウンロードはなし), 10/18 ピアニスト×学芸員スペシャルトーク
●コレクション展鑑賞プログラム	□5 回/展	【達成】 5～16 回/展 ・ 1 期：5 回 ・ ギャラリートーク：7/26, 8/9, 23 ・ 中高生プログラム：6/16, 7/7, 28, 8/4, 11, 18, 25, 9/8, 11/3, 24 ・ その他：6/5K2 インターナショナル鑑賞会 ・ 2 期：16 回 ・ ギャラリートーク：9/27, 28, 10/11, 25, 26, 11/4, 8, 16, 22, 12/7, 13, 27, 1/10 ・ 講演会：9/23 ・ 特別支援学校向けプログラム：12/4, 13
●人材育成事業	□2 回/年	【達成】 3 回/年 ・ 教師向け鑑賞ガイド(ウェブダウンロー

		ド) : 5/25, 6/22, 12/7 ・アートティーチャーズデー: 5/11, 10/26 【追加】 1 件 ・教師向け研修: 4/24, 5/8, 7/26 (横浜市芸術文化プラットフォーム), 11/6, 22, 2/19 【達成】 42 回/年 ・6/21, 23 街歩き (原展) ・10/8, 15, 20, 22, 27, 29, 11/3, 4, 5, 10 ココが見どころ! (ペリー展) 各日 4 回 【達成】 1 回/年 ・10/5 受入実施 (JICA・民博) [再掲: 海外インターン受入] 【追加】 1 件 ・団体向け: 9/25, 30, 10/1, 2 ヨコビ探 検隊 7 校 【達成】 1 回/年
●ボランティアによるトーク	☐ 個人向け 1 回/年	
	☐ 外国人向け 1 回/年	【達成】 1 回/年 ・9/21-11/10 ペリー展@アートギャラ リー1 【追加】 3 件 ・10/16, 30 ペリー展ギャラリートーク ・10/19, 11/9 ペリー展石版画デモンス トレーション ・11/2 ペリー展スペシャル・レクチャー
●国際シンポジウム(開館 30 周年記念事業)[再掲]	☐ 1 回/年	
●開港 160 周年をテーマにした教育普及の観点による展示	☐ 1 回/年	

(2) 教育プログラム：子どものアトリエ

[目指す成果／アウトカム]

発信力の強化に資する事業として、多様で魅力的な事業を実践し、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた子ども向けの創造支援事業を継承することで、子どもの自立を支援するため、

- ・ 下記を引き続き実施します。なお、鑑賞教育の活動が軌道にのってきた状況を鑑み、子どものアトリエは、創造支援活動中心とし、専門性をより深めます。
- ・ 学校のためのプログラム：学校連携、鑑賞を組込み、展覧会の内容や鑑賞ポイントを教師に伝えるレクチャーの開催、教師向けのワークショップ開催
- ・ 個人を対象にしたプログラム：造形活動、鑑賞活動
- ・ 市、学校、地域施設、企業、NPO 法人、ボランティア等との連携

・外部連携による事業展開を実施します。 [成果についての振り返り] ・子どものアトリエでは、25,000 人の目標に対し、新型コロナウイルスに関連した 2/29 以降の講座中止等により、19,897 人(80%)と計画を下回りましたが、アーティスト 連携について、ガラス造形作家、MEET 展出品作家、パーカッショニスト、メディアアーティストによる講座を実施し、意欲的に取り組みました。 ・なお、アトリエと企画展の共同制作プロジェクトとして、MEET 展出品作家とグランドギャラリーでワークショップを行い、その成果作品を会期中にグランドギャラリーに展示しました。		
[取組内容] ●個人むけ講座や学校向けプログラムなどの通常業務 ●アーティストあるいは外部専門文化機関との連携 ●学校プログラム、人材育成事業	[達成指標] □利用者数 25,000 人/年 □2 講座(個人講座 20 講座のうち)/年 □90 校/年、4 回/年	[実施内容と達成状況] 【未達成】19,897 人/年 [再掲：研修 9 回] 【達成】4 講座/年 ・個人講座 4 講座[アーティスト連携] ・4/7, 14, 21 ガラス造形作家 ・4/27 出品作家共同制作(MEET 展) ・7/31 パーカッショニスト ・8/19-20 メディアアーティスト 【達成】横浜市芸術文化プラットフォーム 5 回/年 (市民のアトリエの計画に基づき実施・市民のアトリエ 1 回と合算)：9/20, 10/16, 30, 11/22 ・学校プログラム 105 校(研修 9 回含)

(3) 教育プログラム：市民のアトリエ

[目指す成果／アウトカム] 発信力の強化に資する事業として、多様で魅力的な事業を实践し、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた一般の市民向けの創造支援事業を深化させることで、市民の創作活動を支援するため、 ・下記の実施を強化します。なお、著名アーティストなどとの外部連携による新しい分野の講座を開始します。 ・市民の創作活動を支援する事業の実施 ・市、学校、地域施設、企業、NPO 法人、ボランティア等と連携 [成果についての振り返り] ・市民のアトリエでは、5,500 人の目標に対し、6,083 人(111%)と計画を上回りました。本年度は、企画展のみならず、コレクション展など多様な展覧会と連携し、抹茶茶碗、日本画、レクチャー、複製絵画の講座を実施しています。また、東京藝術 大学映像科との連携については、検討のなかで双方良い形での事業実施は難しいと判断しました。今後は他大学も含めて連携を検討していきます。 ・なお、アトリエと企画展の共同制作プロジェクトとして、MEET 展出品作家とグランドギャラリーでワークショップを行い、その成果作品を会期中にグランドギャラリーに展示しました。		
[取組内容] ●環境に関する講座や展覧会と連携した講座などの個人向けワークショップに加え、	[達成指標] □利用者数 5,500 人/年	[実施内容と達成状況] 【達成】6,083 人/年 ・環境：6/2, 16&10/6, 20 みどりアップ

自主的に制作に取り組むオープンスタジオなどの通常業務		・ 展覧会連携：：4/28 出品作家共同制作(MEET 展), 8/3-9/1 抹茶茶碗(原展), 8/24 日本画(原展), 11/23 桑久保徹氏レクチャー(オレンジジュリー展)[再掲: 著名アーティスト連携], 11/24 複製絵画(コレクション展 2 期)
● 著名アーティスト連携による新分野講座	□ 2 講座/年	【達成】 2 講座/年 ・ 11/23 桑久保徹氏レクチャー
● 東京藝術大学映像科連携講座	□ 1 講座/年	・ 1/12 鈴木理策氏ライブラリートーク
● 横浜市芸術文化プラットフォームによる学校連携	□ 3 回/年	【未達成】 0 講座/年 【達成】 5 回/年 (子どものアトリエ 4 回と合算) ・ 12/23

(4) 市民協働：ボランティア等

[目指す成果／アウトカム] 市民とつながるプログラムの強化に資する事業、多彩な市民力を取り込む美術館活動の強化（コレクションに関する教育普及）、ビジターサービス機能への市民の力の活用として、美術館を市民に開き、市民が多面的に美術館とアクセスでき、新しい価値観を享受でき、愛着と誇りをもつことができる環境をつくるため、 ・ 子どものアトリエ運営ボランティア、美術情報センターボランティア育成を、引き続き実施します。 ・ コレクション展でのギャラリートークや鑑賞会における展覧会鑑賞パートナーの育成を強化します。 ・ ビジターサービスにおける市民および NPO 法人との協働を強化します。 ・ 市民との協働については、外国人、障がい者、観光案内へのきめ細やかな対応を行うビジターサービス・ボランティアの推進を検討します。 [成果についての振り返り] ・ 各分野で目標を上回るボランティアの方にご参加いただき、市民の力を活用しています。 ・ ボランティアについては、今年度から、鑑賞ボランティアとビジターサービス・ボランティアとが統合して活動し、アクセス・プログラムやアクティブ・リスニングなど外部の専門家による研修を経て、様々なトークや来館者案内を行っています。		
[取組内容] ● 子どものアトリエボランティア ● 美術情報センターボランティア ● 鑑賞ボランティア ● ビジターサービス	[達成指標] □ 20 人/年 □ 5 人/年 □ 25 人/年 □ 2 回/年	[実施内容と達成状況] 【達成】 39 人/年 ・ 4/1-3/31 【達成】 7 人/年 ・ 2/15[再掲:美術情報センター] 【達成】 81 人(ビジターサービスボランティア含む) ・ 4 月-翌年度末 【達成】 3 回/年

・アウトリーチでは、従来より引き続き、病院、高齢者施設でのアウトリーチを行い、また、市内の若者自立支援組織と連携し、アウトリーチと当館でのワークショップを実施しています。 ・人材育成については、博物館実習で 8 人を受入れました。□		
[取組内容] ●アウトリーチ ・病院等 ・福祉施設 ・高齢者施設 ●人材育成 ・博物館実習 ・子どものアトリエ インターンシップ ・教師のためのワークショップ	[達成指標] □2 回/年 □1 回/年 □1 回/年 □1 回/年 □5 名/年 □2 回/年	[実施内容と達成状況] 【達成】 3 回/年 ・ 7/17 横浜医療福祉センター港南 ・ 10/1 県立こども医療センター ・ 10/11 市立大学附属病院 【達成】 1 回/年 ・ 11/19 K2 インターナショナル ※12/18 鑑賞とワークショップ@当館 【達成】 1 回/年 ・ 12/5 戸部ハマノ愛生園[横浜国立大学連携] ※11/29 事前研修会@当館 【追加】 2 件 ・ 4/2, 8/3, 10 企業 ・ 10/21, 11/1 幼稚園・保育園 【達成】 1 回/年 ・ 7/29-31, 8/5-7 実施(*8/2-4 自習)8 人 【達成】 5 人/年 ・ 4/1-3/31 【達成】 2 回/年[再掲:子どものアトリエ]

6 施設の運営に関する計画

◇政策目標『お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います』

(1) 来館者サービスの充実

[取組内容] ●四つの基本方針(*)に従った来館者サービス業務 *1)顧客サービス員の質向上 2)顧客サービス員および市民協働の特性を活かし、より多様な来館者へのきめ細やかな対応実現 3)多言語で、高齢者等にも見やすいパン	【指標】	[実施内容と達成状況] 【達成】 実施 1) 委託会社契約に質向上に関する項目追加 継続 2) 多様な方々が来館しやすくなる施策を実施 ・団体:36 団体に事前 レクチャー
--	-------------	---

フレット等 4) グランドギャラリーでの季節感のあるおもてなし、プロモーション	□ 展覧会来館者アンケート「スタッフの対応」 評点 4.00 以上 □ 展覧会来館者アンケート「使い勝手のよさ、清潔さ」 評点 4.30 以上	提供 ・ 近隣就業者 ・ マークイズ : 4/9, 5/14, 6/11, 7/9, 8/20, 9/10, 10/8, 11/12, 12/10, 1/14, 2/18 ・ 8/22 YMM 地域交流会 3) パンフレット等整備 ・ 通常業務実施 4) 植物、ソファ 等 設置 ・ 12/25-1/7 門松 ・ 1/3-7 お正月装花 【達成】 4.27 【達成】 4.48
---	---	--

(2) ショップやカフェの付加価値の向上

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
● ショップ ・ コレクションを活用したオリジナル商品 * 開館 30 周年記念グッズ (開館 30 周年記念事業) [再掲] ・ 企画展関連商品コーナー	□ 1 商品/年	【達成】 1 商品/年
● カフェ ・ コレクションを活用したオリジナルメニュー ・ 企画展関連メニュー	□ 1 回/企画展 □ 1 商品/年 □ 1 商品/企画展	【達成】 1 回/企画展 【達成】 1 商品/年 ・ 2 月 : 1 商品 【達成】 1~3 商品/企画展 ・ MEET 展 : 3 商品 ・ 原展 : 2 商品 ・ オランジュリー展 : 1 商品

◇政策目標『財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します』

(1) 適正な施設管理

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
● 大規模改修	■ 大規模改修の実施にむけ市と協働	【達成】 実施
● 日々の適正な施設管理	□ 安全管理事故 0 件/年	【達成】 0 件/年

●災害対応 ・マニュアルの最新化と共有 ・訓練 ●開館 30 周年記念事業 ・企画展[再掲] ・国際シンポジウム ・記念誌発行 ・式典開催 ・グッズ制作	□1 回/年	【達成】1 回/年 ・11 月
	□2 回/年	【達成】2 回/年 ・8/28, 2/18
	・入場者数 283,000 人/年 ・企画展アンケート 4.0 以上/年 ・1回/年 ・1 回/年 ・1 回/年 ・1 回/年	【達成】340,336 人/年 【達成】4.51/年 【達成】1 回/年 ・6/8 シンポジウム, 6/9 分科会 【達成】1 回/年 ・10/31 発行 (日英別冊) 【達成】1 回/年 ・4/12[財団専門館連携] 【達成】3 回/年 ・4/12 コレクションをラベルに 用いたワイン、パッケージ に用いたお菓子販売開始 ・9/20 コレクションを用いたカ レンダー販売開始：第 71 回全国カレンダー展「文 部科学大臣賞」「金賞」受 賞 【追加】3 件 ・9/27-29 30 周年音楽舞台@ KAAT[NHK 連携] ・10/9-15 横浜美術館逢坂館長と カナダのアートをめぐる旅[民 間旅行会社連携] ・11/1-4 バースデー・ウィーク エンド：11/2 呈茶席 (裏千家 青年部), 11/3 記念誌出版記念 トークイベント (森村泰昌氏) ほか

(2) 経営基盤の強化

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
●ファンドレイジング ・法人協賛制度支援者	□前年度同数/年	【未達成】前年度 2 社減/年 ・実績 7 社(目標 9 社)

		【追加】 2 件 ・ 5/27, 2/18 特別鑑賞会 ・ 9/7-8SUV
--	--	---

(3) 人材強化

〔取組内容〕 ●学芸員、エデュケーター育成	〔達成指標〕 ■学芸員、エデュケーターの求める人材像を定め、人材育成に活用	〔実施内容と達成状況〕 【達成】 実施 ・ 財団スケジュールに従い実施
---------------------------------	---	---

7 その他：政策協働

◇政策目標『政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します』

〔取組内容〕 ●市の政策と事業の相互連携 ●外部意見の取入れ ・ 外部有識者を交えた教育普及企画運営会議 ●年報発行	〔達成指標〕 □政策経営協議会 4 回/年 □1 回/年 □1 回/年	〔実施内容と達成状況〕 【達成】 4 回/年 ・ 4/23, 7/23, 11/19, 1/21 ※5/31, 6/3, 19, 8/27, 10/18, 21 外部評価委員の対応 【達成】 2 回/年 ・ 4/6 教育普及検討会議 ・ 1/27 勉強会 【達成】 1 回/年 ・ 12 月発行
---	---	--

8 組織

〔取組内容〕 過去の実績を踏まえ、高い専門性を発揮できる組織として、事業展開と施設の安全安心な運営を強化	〔達成指標〕 □計 46 人 ・ 館長 1 人 ・ 副館長 2 人 ・ グループ長 5 人 ・ チームリーダー 9 人 ・ 担当リーダー・職員 29 人	〔実施内容と達成状況〕 □計 52 人 ・ 館長 1 人 ・ 副館長 2 人 ・ グループ長 4 人 ・ 担当グループ長 1 人 ・ チームリーダー 9 人 ・ 担当リーダー・職員 35 人
--	---	---

9 留意事項

〔取組内容〕 ●保険及び損害賠償の取扱い ●法令の遵守と個人情報保護 ●情報公開への積極的取組	〔達成指標〕 ■業務の基準に基づいた適正な取扱い ■コンプライアンス窓口を設置	〔実施内容と達成状況〕 【達成】 実施 【達成】 実施
---	--	--

●市及び関係機関等との連絡調整 ●その他 1) 許認可及び届出等 2) 施設の目的外使用 3) 人権の尊重 4) 近隣対策 5) 重要書類の管理 6) 行政機関が策定する基準等の遵守 7) 法令の制定及び改正への対応	し対応 □個人情報保護研修 1回/年 ■財団事務局に情報公開窓口を設置し対応 ■横浜市や関連機関との連絡緊密化 ■法令・条例・規程等に基づいた適正な管理実施	・財団にて設置済 【達成】1回/年 ・2月 全職員実施 【達成】実施 【達成】実施 【達成】実施
---	---	--

10 特別事業

[取組内容] ●大規模改修 ●夜間開館	[達成指標] ■実施設計および引越しについて、市の計画に基づいた迅速な対応と協力 □企画展会期中の毎金土夜	[実施内容と達成状況] 【達成】実施 【達成】実施 ・毎週金土, 1/12(日)
--	--	--

平成31年度／令和1年度「横浜美術館」収支決算書

収入の部

(税込、単価:円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	865,854,000		865,854,000	865,854,000	0	横浜市より
文化施設運営事業	767,626,000		767,626,000	767,626,000	0	
夜間運営費	48,228,000		48,228,000	48,228,000	0	
作品等移転準備費	50,000,000		50,000,000	50,000,000	0	
利用料金収入	70,815,000		70,815,000	74,570,696	△ 3,755,696	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）収入	0		0		0	
自主事業収入	322,451,000		322,451,000	320,518,250	1,932,750	
横浜市費用負担	0		0	8,592,000	△ 8,592,000	新型コロナウイルス感染症に関する横浜市の費用負担分※
雑入	150,400,000	0	150,400,000	58,691,423	91,708,577	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料	1,000,000		1,000,000	1,177,596	△ 177,596	
駐車場利用料収入	0		0	0	0	
その他	149,400,000		149,400,000	57,513,827	91,886,173	
収入合計	1,409,520,000	0	1,409,520,000	1,328,226,369	81,293,631	

支出の部

科目	当初予算額	補正額	予算現額	決算額	差引	説明
人件費	374,114,000	0	374,114,000	342,241,202	31,872,798	
給与・賃金	301,189,000		301,189,000	273,029,574	28,159,426	
社会保険料	47,559,000		47,559,000	46,753,654	805,346	
通勤手当	7,532,000		7,532,000	7,874,300	△ 342,300	
健康診断費	250,000		250,000	245,996	4,004	
勤労者福祉共済掛金	250,000		250,000	466,360	△ 216,360	
退職給付引当金繰入額	17,334,000		17,334,000	13,871,318	3,462,682	
事務費	13,250,000	0	13,250,000	10,772,828	2,477,172	
旅費	125,000		125,000	453,197	△ 328,197	
消耗品費	858,000		858,000	1,196,446	△ 338,446	
会議費	0		0	0	0	
印刷製本費	664,000		664,000	504,512	159,488	
通信費	3,607,000		3,607,000	2,947,660	659,340	
使用料及び賃借料	1,584,000	0	1,584,000	1,580,208	3,792	
横浜市への支払分	162,000		162,000	163,512	△ 1,512	
その他	1,422,000		1,422,000	1,416,696	5,304	
備品購入費	0		0	0	0	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	251,000		251,000	209,756	41,244	
職員等研修費	968,000		968,000	177,247	790,753	
振込手数料	1,211,000		1,211,000	1,283,953	△ 72,953	
リース料	1,009,000		1,009,000	0	1,009,000	
手数料	1,917,000		1,917,000	1,378,849	538,151	
地域協力費	1,056,000		1,056,000	1,041,000	15,000	
事業費	504,661,000	0	504,661,000	436,138,358	68,522,642	
自主事業費	504,661,000		504,661,000	436,138,358	68,522,642	横浜市費用負担分(※)相当支出5,377,000円を含む。
夜間運営費	48,228,000		48,228,000	48,228,000	0	
作品等移転準備費	50,000,000		50,000,000	50,000,000	0	
管理費	194,295,000	0	194,295,000	206,901,957	△ 12,606,957	
光熱水費	65,734,000	0	65,734,000	61,941,743	3,792,257	
電気料金	62,313,000		62,313,000	58,605,560	3,707,440	
ガス料金	30,000		30,000	67,593	△ 37,593	
水道料金	3,391,000		3,391,000	3,268,590	122,410	
清掃費	27,350,000		27,350,000	27,422,014	△ 72,014	
修繕費	6,055,000		6,055,000	5,923,374	131,626	
機械整備費	6,392,000		6,392,000	6,392,388	△ 388	
設備保全費	88,764,000	0	88,764,000	105,222,438	△ 16,458,438	
空調衛生設備保守	10,813,000		10,813,000	11,228,704	△ 415,704	
消防設備保守	2,060,000		2,060,000	2,154,848	△ 94,848	
電気設備保守	987,000		987,000	995,500	△ 8,500	
害虫駆除清掃保守	0		0	0	0	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	74,904,000		74,904,000	90,843,386	△ 15,939,386	横浜市費用負担分(※)相当支出1,495,000円を含む。
共益費	0		0	0	0	
公租公課	33,092,000	0	33,092,000	37,194,884	△ 4,102,884	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	33,047,000		33,047,000	37,153,300	△ 4,106,300	
印紙税	30,000		30,000	26,000	4,000	
その他（固定資産税）	15,000		15,000	15,584	△ 584	
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	191,880,000	0	191,880,000	175,665,953	16,214,047	
本部分	74,277,000		74,277,000	74,277,000	0	
当施設分	117,603,000		117,603,000	101,388,953	16,214,047	横浜市費用負担分(※)相当支出1,720,000円を含む。
二一ス対応費	0		0	0	0	
支出合計	1,409,520,000	0	1,409,520,000	1,307,143,182	102,376,818	
差引	0	0	0	21,083,187	△ 21,083,187	